

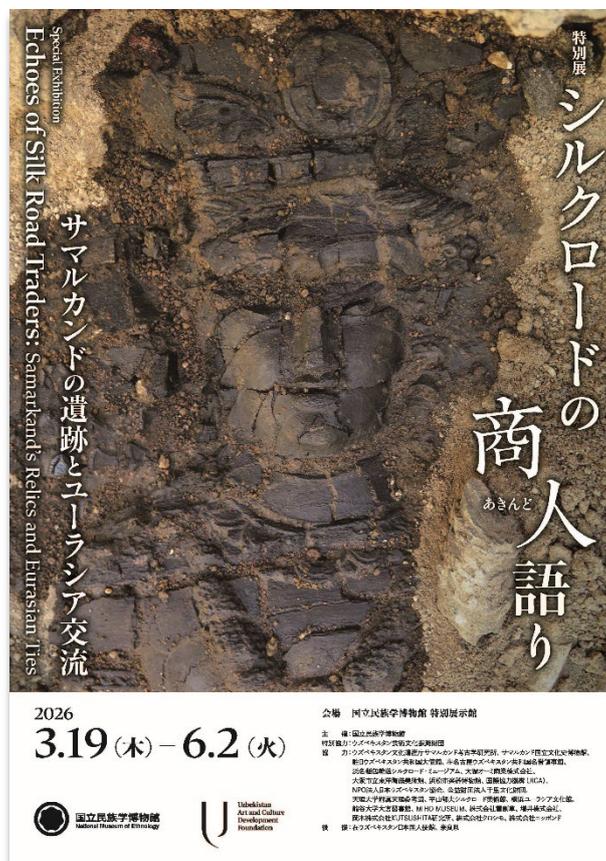
2026年2月2日

報道関係者各位

特別展「シルクロードの<sup>あきんど</sup>商人語り  
—サマルカンドの遺跡とユーラシア交流—

Special Exhibition “Echoes of Silk Road Traders: Samarkand’s Relics and Eurasian Ties”

2026年3月19日(木)～6月2日(火)



展示概要

シルクロードを通じた人やモノの移動、文化の交流において、「商人」の果たした役割は極めて大きく、古代から現代に至るまで、彼らの活動なしにはこの地域の歴史や文化を語ることはできません。

本特別展では、「商人」を過去と現在をつなぐキーワードとして取り上げます。ウズベキスタン共和国サマルカンド市周辺の古代の遺跡から出土した考古遺物から、現代の<sup>ししゅう</sup>刺繍・織物・楽器・民族衣装、さらには宗教や信仰に関する資料まで、シルクロードを行き交った文物を「商人」の活動に焦点を当てながら展示・解説することで、中央アジアにおける文化の多様性と広範な交流・交易の実態を紹介することを目的としています。

## 本展の見どころ

### 1. カフィル・カラ遺跡から出土した女神ナナの「木彫板」

過去には、ルーブル美術館、大英博物館で展示され、本特別展が日本初・世界で3番目（ウズベキスタン国内を除く）の展示となります。展示の実現にあたっては、ウズベキスタンからの輸送費を確保するためにクラウドファンディングを実施し、多くの方からのご支援を得ました。日本人研究者がかかわった発掘調査で発見された、この貴重な文化財を、ぜひとも日本の皆さんにも実際にその目で見ていただきたいと強く願っています。



木彫板発掘時の様子  
(日本・ウズベキスタン共同調査隊提供)

### 2. 伎楽面<sup>ぎがくめん</sup>、楽器、絹織物などの展示

ソグド商人と呼ばれる6～8世紀頃を中心にシルクロード交易で活躍した人びとに関する資料（<sup>よう</sup>桶、伎楽面、楽器、絹織物など）も、日本国内の貴重な借用資料とあわせて紹介・展示します。



ドンブラ（弦楽器）  
(国立民族学博物館所蔵)

### 3. ユーラシア交流の様子を示す資料の展示

第二部では、人とモノの移動や運搬に使われた資料（<sup>くら</sup>鞍や荷袋、二輪馬車など）や、バザールで売り買いされる資料（陶器、<sup>ししゅう</sup>刺繍布、毛織物など）、現代の楽器や信仰に関する資料まで、広くユーラシアにおける交流の様子を示すようなみんぱく収蔵の資料を中心に展示します。



ウマ用鞍一式  
(国立民族学博物館所蔵)

**資料点数 約 520 点**

## 展示構成

### ■ 1 階

#### 第一部 古代シルクロード交易と商人<sup>あきんど</sup>

##### ・序章：遙かなるシルクロードと商人<sup>あきんど</sup>

担当教員／寺村裕史（国立民族学博物館 准教授）

##### ・第1章：ソグド商人の活躍した時代

担当教員／寺村裕史（国立民族学博物館 准教授）

末森薫（国立民族学博物館 准教授）

##### ・第2章：シルクロード交易とソグド人 —商人<sup>あきんど</sup>が運んださまざまなモノ—

担当教員／寺村裕史（国立民族学博物館 准教授）

末森薫（国立民族学博物館 准教授）



木彫板 琵琶-箜篌

（日本・ウズベキスタン共同調査隊提供）

### ■ 2 階

#### 第二部 近現代におけるくらしと商い

##### ・第3章：ユーラシアの交流のなかのくらし

担当教員／藤本透子（国立民族学博物館 准教授）

黒田賢治（国立民族学博物館 准教授）

##### ・第4章：バザールと商い

担当教員／藤本透子（国立民族学博物館 准教授）

黒田賢治（国立民族学博物館 准教授）

##### ・終章：現代に生きるシルクロードの遺産

担当教員／寺村裕史（国立民族学博物館 准教授）

末森薫（国立民族学博物館 准教授）

### ■ 体験コーナー

#### ・ぬりえ体験コーナー

#### ・特別展キャラクターネーミング アンケートコーナー



くらぶくろ  
鞆袋

（国立民族学博物館所蔵）



飾り皿

（国立民族学博物館所蔵）

## 関連イベント

※その他、ワークショップも実施します。

各イベントの申込み方法や詳細につきましては、[みんぱくホームページ](#)をご確認ください。

## 研究公演

### 「シルクロードの音色——中央アジアの楽器と伝統音楽」

- 会場** みんぱくインテリジェントホール（講堂）
- 日時** 3月28日(土) 13:30～16:00 (12:30開場)
- 出演** 駒崎万集（ドゥタール（二弦楽器）、ドイラ（太鼓）奏者）、  
イナラ・セリクパエヴァ（ドンブラ（二弦楽器）奏者）、  
高橋直己（カザフ民謡 歌手）
- 司会** 寺村裕史（国立民族学博物館 准教授）  
末森薫（国立民族学博物館 准教授）
- 定員** 400名
- 参加方法** 事前申込制（先着順）／要展示観覧券（一般780円、特別展をご覧になる場合は一般1,200円）※イベント参加費は不要
- 内容** 本研究公演は、中央アジアの歴史の中で生み出された音楽、とくにウズベキスタンとカザフスタンの伝統音楽を中心に紹介します。伝統音楽の演奏とともに、シルクロードをつうじて各地に広がった楽器の解説も交えながら、中央アジアの伝統的な音楽を広く知っていただくとともに、特別展へのいっそうの理解を深める機会としていただきたいと思います。



### 「越境」する古代仮面芸能・伎楽にせまる」

- 会場** みんぱくインテリジェントホール（講堂）
- 日時** 5月3日(日・祝) 13:30～16:30 (12:30開場)
- 出演** 森山開次（舞踊家、演出家）、笠松泰洋（作曲家、オーボエ奏者）、  
GIGAKU団
- 司会** 末森薫（国立民族学博物館 准教授）
- 解説** 金野幸雄（GIGAKUプロジェクト実行委員会・会長）  
菅野一人（GIGAKUプロジェクト・総合プロデューサー）  
成瀬正和（東北芸術工科大学・客員研究員）



明日香村で演じられたGIGAKU  
(2025年、GIGAKUプロジェクト実行委員会提供)

吉田ゆか子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授）

鈴木昂太（国立民族学博物館・准教授）

**定員** 400名

**参加方法** 事前申込制（先着順）／要展示観覧券（一般780円、特別展をご覧になる場合は一般1,200円）※イベント参加費は不要

**内容** 612年に百済の渡来人・味摩之が日本に伝えたといわれる仮面舞踊劇「伎楽」は、飛鳥～平安時代頃に盛んに演じられ、日本の伝統芸能の基層をなしました。その役柄は国際色豊かで、真公は中国由来、迦楼羅や婆羅門はインド由来、酔胡王は中央アジア由来と考えられます。本研究公演では、身体表現を介して創作された「GIGAKU」のパフォーマンスと伝統楽器による演奏をとおして、文化の越境が作りだした芸能を体感します。また、身体表現、仮面の物質性、伎楽面に関する科学分析など学術的な視点を交えた対話から「伎楽」の実像にせまります。



森山開次氏  
©Sadato Ishizuka



伎楽面 酔胡王  
(国立民族学博物館所蔵)

## みんぱく映画会

### ウズベキスタン映画『ファリダの二千の歌』上映

**会場** みんぱくインテリジェントホール（講堂）

**日時** 5月24日(日) 13:30～16:00 (12:30開場)

**司会** 寺村裕史（国立民族学博物館 准教授）

**解説** 宗野ふもと（筑波大学 助教）

**定員** 350名

**参加方法** 事前申込制（先着順）／要展示観覧券（一般780円、特別展をご覧になる場合は一般1,200円）※イベント参加費は不要

**内容** 1920年代初頭のウズベキスタンを舞台にした作品。映像をとおして現地の人びとの暮らしについて理解を深めます。また、ウズベキスタンをフィールドとする文化人類学者の解説をふまえ、中央アジアの文化や社会が抱えるさまざまな課題などを、一緒に考える機会とします。



みんぱくゼミナール

「シルクロード交易の過去と現在」

- 会 場** みんぱくインテリジェントホール(講堂)  
**日 時** 4月18日(土) 13:30～15:00 (13:00開場)  
**講 師** 寺村裕史 (国立民族学博物館 准教授)  
**定 員** 400名  
**参加方法** 当日参加申込のみ／参加無料 (展示をご覧になる方は展示観覧券が必要)  
**内 容** シルクロードは、紀元前2世紀ごろから東西を結ぶ重要な交易路として発展してきました。特別展と絡めながら、シルクロードを行き交った商人<sup>あきんど</sup>に焦点をあて、その過去と現在、そして未来を考えます。



キャラバンサライ (隊商宿) の遺跡  
「ラバティ・マリク」 2012年撮影

「中央ユーラシアにおける遊牧社会の変貌」

- 会 場** みんぱくインテリジェントホール(講堂)  
**日 時** 5月16日(土) 13:30～15:00 (13:00開場)  
**講 師** 藤本透子 (国立民族学博物館 准教授)  
**定 員** 400名  
**参加方法** 当日参加申込のみ／参加無料 (展示をご覧になる方は展示観覧券が必要)  
**内 容** 中央ユーラシアの草原は、数千年にわたり遊牧民が活動した地域です。テュルク系のムスリムで遊牧民であったカザフ人の社会が、どのように形成され、定住化後も存続しているのか。社会と信仰の両面から考えます。



カザフスタンで草原の墓廟に参詣する  
人びと 2017年撮影

みんぱくウィークエンド・サロン — 研究者と話そう  
 研究者が展示や研究についてお話しします。

「シルクロードの商人<sup>あきんど</sup>ソグド人の信仰と宗教」

- 会 場** 本館展示場 (ナビひろば)  
**日 時** 3月22日(日) 14:30～15:00

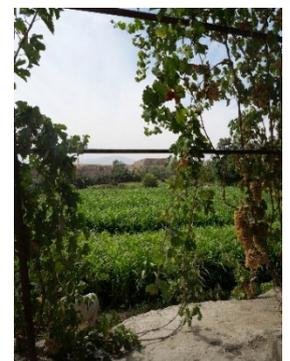
- 講 師** 寺村裕史（国立民族学博物館 准教授）
- 定 員** なし（着席40、立ち見可）
- 参加方法** 要展示観覧券（イベント参加費は不要）
- 内 容** ウズベキスタンのカフィル・カラ遺跡から発見された、女神ナナを中心に供物を捧げる人々や音楽隊が描かれた木彫板を、特別展にて展示します。この資料は、6～8世紀頃のソグド人の文化や宗教観を今に伝える貴重な遺物です。その歴史的背景や芸術的価値についてご紹介します。



出土直後の女神ナナの頭部  
（日本・ウズベキスタン共同調査隊提供）

### 「カフィル・カラ遺跡発掘秘話」

- 会 場** 本館展示場（ナビひろば）
- 日 時** 5月10日（日） 14:30～15:30
- 講 師** 寺村裕史（国立民族学博物館 准教授）  
黒田賢治（国立民族学博物館 准教授）
- 定 員** なし（着席40、立ち見可）
- 参加方法** 要展示観覧券（イベント参加費は不要）
- 内 容** 特別展で日本初公開となるシルクロードの至宝の木彫板。1000年以上もの眠りを地中から呼び覚ました裏にある、世界遺産「カフィル・カラ遺跡」発掘にまつわる数々の涙と笑いのエピソードをトーク形式でざっくばらんに掘り起こします。



調査隊ベースキャンプから遺跡を望む  
撮影：黒田賢治、2024年

### 友の会講演会

### 「現代のシルクロードをさすらう——東西ユーラシアの文化動態と地域の境界」

- 会 場** 本館2階第5セミナー室
- 日 時** 4月4日（土） 13:30～15:00（13:00開場）
- 講 師** 黒田賢治（国立民族学博物館 准教授）
- 内 容** イラン北東部から中央アジアを通り、中国西北部までの中央ユーラシア世界は、歴史的にはシルクロードの東西交易の中間地帯でした。今日にその足跡をさすらいながら、中央ユーラシア世界に連続性として広がる文化の動態とともに、地域の境界について目を向けます。
- 定 員** 70名



暮夜のタシュケント南駅  
撮影：黒田賢治、ウズベキスタン、  
2024年

- 参加方法**
- ① 会場参加（第5セミナー室）
  - ② オンライン（ライブ配信）参加 ※会員限定
    - ・会場、オンライン配信ともに事前申込制（先着順）。
    - ・友の会会員：無料、一般：500円。
- ※講演会終了後、特別展の見学会をおこないます。  
（要特別展示観覧券）

**問い合わせ** 国立民族学博物館友の会（公益財団法人 千里文化財団）  
電話 06-6877-8893

## 友の会 東京講演会

### 「はるかなるシルクロードとユーラシアの十字路」

- 会場** JICA地球ひろば セミナールーム600
- 日時** 5月17日（日）13:30～15:00（13:00開場）
- 講師** 宇野隆夫（帝塚山大学 客員教授）
- 内容** ユーラシアの遠距離交易路は、漢武帝よりはるか以前から発展していました。また東西文明を結んだ隊商のシルクロードだけではなく、海路を含めて多くのルートがありました。本講演では、シルクロード全体の推移、また中央アジア・サマルカンド周辺（ソグド人の本拠地）がその重要な十字路であったことを中心にお話しします。

**定員** 45名

- 参加方法** 会場参加
- ・事前申込制（先着順）。
  - ・友の会会員：無料、一般：500円。

**問い合わせ** 国立民族学博物館友の会（公益財団法人 千里文化財団）  
電話 06-6877-8893



ソグド商人像（特別展で展示予定）  
浜名梱包輸送シルクロード・  
ミュージアム蔵

## 開催概要

展覧会名	特別展「シルクロードの商人語りーサマルカンドの遺跡とユーラシア交流ー」
会場	国立民族学博物館 特別展示館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)
会期	2026年3月19日(木) ～ 6月2日(火)
開館時間	10:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日	水曜日 (水曜日が祝日の場合は直後の平日)
観覧料	一般 1,200円(810円)、大学生 600円(340円)、高校生以下無料 ※本館展示もご覧いただけます。※入館当日はチケット半券で再入場できます。 ＊( )内は、20名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業でご利用の方、3ヵ月以内のリピーター、満65歳以上の方(一般料金)の割引料金(要証明書等)。 ＊障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。
主催	国立民族学博物館
特別協力	ウズベキスタン芸術文化振興財団
協力	ウズベキスタン文化遺産庁サマルカンド考古学研究所、サマルカンド国立文化史博物館、駐日ウズベキスタン共和国大使館、在名古屋ウズベキスタン共和国名誉領事館、浜名梱包輸送シルクロード・ミュージアム、大塚オーミ陶業株式会社、大阪市立東洋陶磁美術館、浜松市楽器博物館、国際協力機構(JICA)、NPO法人日本ウズベキスタン協会、公益財団法人千里文化財団、天理大学附属天理参考館、平山郁夫シルクロード美術館、横浜ユーラシア文化館、龍谷大学大宮図書館、MIHO MUSEUM、株式会社雪割草、増井株式会社、岡本株式会社 KUTSUSHITA研究所、株式会社クロシモ、株式会社ニッポンド
後援	在ウズベキスタン日本国大使館、奈良県

## 実行委員長 寺村 裕史 (てらむら ひろふみ)

国立民族学博物館学術資源研究開発センター・准教授。

専門は情報考古学、中央アジアの考古学で、GIS や 3次元測量などデジタル技術を用いた遺跡調査、資料のデジタル化と空間情報の統合研究に取り組む。古代シルクロード都市の形成、人・文化の交流、宗教の伝播と受容、古墳の立地や眺望分析など、多角的に文化景観を解明している。国内外での共同研究やデータベース整備にも積極的で、文化遺産の継承と公開に寄与。主な著書に『景観考古学の方法と実践』がある。



## 実行委員

末森 薫（国立民族学博物館 准教授）

藤本 透子（国立民族学博物館 准教授）

黒田 賢治（国立民族学博物館 准教授）

ベルディムロドフ・アムリディン（サマルカンド考古学研究所 上席研究員）

ベグマトフ・アリシエル（ベルリン・ブランデンブルク科学アカデミー 研究員）

宇野 隆夫（帝塚山大学 文学部 客員教授）

影山 悦子（名古屋大学 人文学研究科 准教授）

宗野 ふもと（筑波大学 人文社会系 助教）

村上 智見（東北芸術工科大学 芸術学部 准教授）

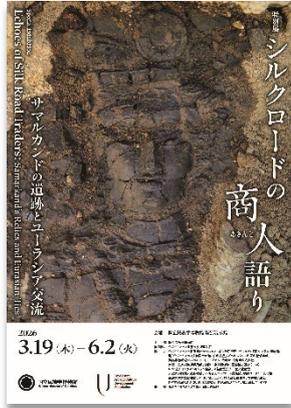
---

[お問い合わせ] 国立民族学博物館 総務課 広報係

Tel:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: [koho@minpaku.ac.jp](mailto:koho@minpaku.ac.jp)

プレス向けウェブサイト [www.minpaku.ac.jp/press](http://www.minpaku.ac.jp/press)

特別展「シルクロードの<sup>あきんど</sup>商人語りーサマルカンドの遺跡と  
ユーラシア交流ー」広報用画像リスト



【1】特別展チラシ



【2】ラクダ用飾り布



【3】<sup>くらぶくろ</sup>鞆袋



【4】ウマ用鞍一式



【5】花嫁用衣装



【6】花嫁用衣装



【7】ドブラ（弦楽器）



【8】かぎたばこ入れ



【9】飾り皿



【10】壁掛け



【11】敷物



【12】ティーセット

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、総務課 広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。

資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

特別展「シルクロードの<sup>あきんど</sup>商人語り—サマルカンドの遺跡と  
ユーラシア交流—」広報用画像 利用申込用紙

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日	年 月 日

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

 3組6枚       5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【申込先】

E-mail [koho@minpaku.ac.jp](mailto:koho@minpaku.ac.jp) または Fax 06-6875-0401

【広報に関するお願い】

## ■ 写真使用に関するお願い、注意事項

・クレジットには次のとおり記載してください。

【2】～【11】国立民族学博物館所蔵

【12】個人蔵

・写真（画像）の過度なトリミングや改変、文字乗せはご遠慮ください。

・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

## ■ 本館の基本情報等の確認のため、E-mail または Fax にて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。

## ■ お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

【お問い合わせ・送付先】

国立民族学博物館 総務課広報係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
Tel : 06-6878-8560 (直通) Fax : 06-6875-0401 E-mail : [koho@minpaku.ac.jp](mailto:koho@minpaku.ac.jp)